

**内容別・観点別の分析 (様式2)**

	内容別結果分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>色彩の学習では、色についての知識をしっかりと学ぶことができた。</li> <li>レタリングの学習では、明朝体、ゴシック体の特徴を理解し、形を正確に描くことができた。また、レタリングを学び、基礎を身につけた後にポスター制作に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターカラーを用いて絵を描いたが、深く考えずに一色で塗ろうとする生徒がいるので、色を重ねるよう指導したら、深みのある絵を描くことができた。効果的に筆を使い分けたり、水分量の調節が適切でなかったりする生徒がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明朝体の縦画と横画の太さのバランスがとれない生徒が多かった。正しい手順で描いていない生徒がいたため、正確な手順で描くように指導する。絵の具の性質を理解させ、表現意図に合うように水分量を調節したり、色を重ねたりして表すことができた。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な形を描く鉛筆デッサンやペン画制作では、明暗の調子を捉えたり、白黒のバランスを考えたりして、奥行きを意識して描くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆やペンの線を立体の面に沿ってシェーディングしていくよう指導したが、うまく感覚がつかめない生徒や、力の加減ができず、自然な陰影を描けない生徒がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明暗の調子をとらえながら描くことができるようになった。鉛筆の筆圧やペンの使い方がうまくできていない生徒には、練習用のワークシートを通して繰り返し練習をさせ、基本的な技能を身につけさせるようにしていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>木工芸の制作では、彫刻刀の使い方を理解し、主に片切り彫りや浮き彫りの技法を用いて、レリーフ表現をすることができた。</li> <li>仏像について学習し、学んだ知識を活かしながら仏像や文化財を鑑賞することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>また、デザインが細かすぎてしまい、彫刻には向かないデザインを考えてしまうなど、半立体的なイメージをもつことが難しい生徒がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>彫刻刀を安全に正確に使うことはできている。レリーフの半立体的なイメージをもつよう、練習用板で実際に彫ったものを提示することで、生徒が自分の制作に生かせるように指導した。また、彫刻する箇所は視覚的に分かるようにしるしなどを付けるよう指導する。</li> </ul>

**指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画 (様式3)**

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ムラなくはみ出さずに塗る」ことは1年次に習得したが、ぼかしやドライブラシなど、筆の使い方を工夫することによって様々な表現ができることをもっと指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導だけではなく、授業者が実演をしてみせるなど、生徒にイメージをもって取り組ませる指導を行う。</li> <li>練習用の画用紙などを使って、筆の使い方を変えながら、繰り返し練習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的技能的な定着を図り、基礎的な作業に十分な時間をかける。そのためにも余裕をもった計画を立てるよう心掛ける。</li> <li>発想を考える時間と技能を学ぶ時間とのバランスをとる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆の使い方(線の描き方、力の加減)がうまくできていない生徒が多いため、引き続き鉛筆による作品制作に取り組み、鉛筆の使い方の基本を指導する必要がある。</li> <li>生徒が意欲的に取り組む授業になるように心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆デッサンやペン画制作の際に、スケッチブックを使って、力の入れ具合や手の動かし方を段階をおって指導する。</li> <li>達成感をもたせるため、良い点を認め、褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的技能的な習得させるためにスケッチブックを活用し、繰り返し練習させる。</li> <li>発想や構想を練る時間と技能を習得させる時間とのバランスをとる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>切り出し刀の使い方が正確にできていない生徒が多かったため、指導に時間をかける必要がある。</li> <li>立体的なイメージをもつことができるように、導入の授業でしっかりと説明する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導を徹底し、彫刻刀の使い方が間違っている生徒に指導をする。</li> <li>導入の授業の際に、黒板に図を描いて説明するなど、指導方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を活用し応用できるよう、作業に十分な時間をかける。必要に応じて、前年度の技能習得の内容を繰り返し余裕をもった計画を立てるよう心掛ける。</li> <li>授業時数の少ない中で、生徒に時間配分や作業スピードを意識させ、授業に取り組ませる。</li> </ul>